



インディアナ日本語学校便り

学校教育目標 自ら学び、正しく行動する国際性豊かな児童生徒の育成

避難訓練(火災) 12月3日実施



『カフェテリアのキッチンで火が発生。』という想定で避難訓練を行いました。

緊急放送とともに、園児・児童・生徒全員は、一斉に整然と校舎前の芝生に避難することができ、時間は4分30秒でした。

日本は、地震が多い国なので、大きな地震で火事が起こると、たくさんの方が亡くなります。そのため、死ぬ人が出ないように、出火場所に対して安全な出口を見つけて避難することが大事です。その際、お(おさない)か(かけない)し(しゃべらない)も(もどらない)と指導しています。しかし、学校にいますときだけに地震が起こるとは限りません。私たちにできることは、まず「自分の命は自分で守る。」ということに心がけることです。そして、日頃から本当に起きた時のつもりになって、訓練をして、そなえておくことが大切です。

今回、それぞれの避難口から退避する時におしゃべりをする人が少なかったのは、とっても素晴らしいとほめました。日本語学校は、年3回避難訓練を行っています。

高等部弁論大会

11月19日





審査
運営委員



講評
宮川委員長

第8回高等部弁論大会(1年生から3年生の生徒たちが参加)が、11月19日に開かれました。生徒たちは、それぞれが自分のテーマを決め、この日のために準備を進めてきました。社会が予測ができないほどのスピードで変化する中、「自分で考える力(思考力・判断力・表現力)」が重視され、なによりも問題を解決する能力が、社会を生き抜いていくために大切です。弁論大会は、その訓練となる場であり意義は大きいです。すぐに答えが見つからなくても、まさに問題解決的な学習を習慣化することが大切となります。

【審査基準】

審査結果

最優秀賞

赤地 理雄 「TCK-Third Culture Kids であること」 2年生

優秀賞

金田 光太郎 「現代における武士道」 3年生

宮川 創太郎 「いい人とは何だろう」 3年生

田上 陽翔 「目標」 1年生

インパクト賞

大峽間 暖 「日本とアメリカ、家庭ゴミの分別の違い」 1年生

竹本 咲 「自分を変えたダイエット 自信=見た目+メンタル」 1年生

中野 元太 「若者言葉の誕生秘話」 2年生

校長賞

梅村 彩音 「農業で地球温暖化対策」 1年生

森 美唯菜 「優しさリレー」 3年生

川合 優希 「How are you?」 3年生

審査員特別賞

鈴木 健一郎 「多言語話者と共感」 3年生

1.論理性 ①構成がしっかりしている。 ②主張のわかりやすさ。 ③根拠と結論の良さ。

2.インパクト ①心に残るか・心が動かされたか。②メッセージの強さ ③オリジナリティ

3.態度 ①正しい日本語 ②声の大きさ・スピード ③表情(視線や姿勢)・感情

〈審査を終えて〉

○昨年よりも全体レベルが上がっていました。テーマについてのスピーチ内容が、もう少しという生徒は一人もいませんでした。

○全体として、自分の考えた根拠に基づいて、自分が理解した内容を発表できる生徒たちの力が素晴らしかったです。

○自分の選んだテーマについて、さまざまな視点から比較し、立場を変えた見方ができていました。

た。

○日本語が苦手な生徒もいたと思いますが、よく頑張っていて、全く感じさせませんでした。

○現代の社会が抱えている問題に対して、日常から遠い世界の問題と関心を示さないのではなく、自分事として考えられることが重要です。今後の弁論大会の方向性として、日常生活の中から問題を発見したり、ニュースから時事的な話題の解決方法を自分なりに一生懸命考えたり、資料やデータ等をもとに関連付けて考えをまとめたりするスピーチとなることを期待しています。

○社会の変化に敏感で、先を見通していくためには、受け身ではなく、情報に対する感度を高め、インターネットで積極的に情報を取りに行く習慣を身につけることが大切です。みなさんに期待しています。

※当日は、運営委員会の宮川委員長、泉山副委員長、飯田副委員長の方々を審査員としてお招きし、校長を合わせた4名で審査を務めました。

最優秀賞

「TCK - Third Culture Kids」であること

高等部2年 赤地 理雄

自分って、何者だろう？

あなたは今までこんな質問を自分に投げかけてみた事はないだろうか？

私は、ある。

何度も考え、その度に頭を抱えた。私は、いまだにこの質問の答えを導き出せてはいない。

私はちょうど10歳の時に父の仕事の都合でここに引っ越して来た。アメリカに来ると決まった時は、全く信じられず、泣き喚いて落ち込み、人生の理不尽さに腹を立てた。

だが時間が経つにつれ、あんなに泣いた事が嘘だったかのように私はアメリカに馴染んで行った。友達もできたし、英語も喋れるようになった。学校も毎日行くのが待ち切れなくなった。

ただ、人生は簡単には上手く行かない。アメリカの生活に慣れ、何の問題もないと思って来た時に突然頭に浮かんできた質問が、私を苦しめるようになる。

「私は一体何者なのだろう？」

日本に一時帰国した際に、日本の学校で「英語ぺらぺらでしょ？何か喋ってみてよ」と言われた時に感じた違和感や、アメリカでの生活の中で感じた壁が、パズルのピースのように組み合わさった気がした。

その後は不安と焦りの連続だった。時間が経つにつれ、私の心の中の不安はどんどん膨らんでいった。この不快感の解決方法はないのかと、居ても立っても居られなくなり、インターネットで調べてみた所、このような悩みを持つ人は数え切れないほどいるという事がわかった。

彼らは「Third Culture Kids」、略してTCKという。日本語に訳せば帰国子女が一番近い言葉になる。これは1960年代に社会学者のルース・ユースム博士が作った言葉で、両親の国の文化を第一文化、生活している国の文化を第二文化とし、そのどちらでもない狭間の文化、つまり第三文化の中で過ごした子どもたちのことを指す。彼らは自分が所属する文化や国を見つけにくく、どこにも居場所が無いと感じたり、アイデンティティクライシスに陥りやすい。

まさに、私がそうだった。

この事を踏まえた上で、私は自分の不安の解消法を探すため、様々な事を考えた。悩みに悩んだ末、私は二つの解決方法を編み出した。

一つ目。それは、私は地球人である、と考える事。私は日本と言う国で生まれたが、広く見れば地球で生まれ、地球で育ってきた。だったら、国という小さな単位に縛られることなんてないじゃないか、と考えたからだ。

二つ目。それは、「私は私」という事を再認識し、認める事である。こう思う事によって、自分自身の全てを受け入れ、自分を高められる様になると気づいた。

しかし、これはまだ私は何者かという質問の完璧な答えにはなっていないし、私を含めて誰にも完璧な答えなんてない。だから、私はどんな答えでも正解だと思う。

もし、あなたが自分が誰だかわからなくなって悩みに悩んでいる時、思い出してみて欲しい。自分は自分なのだという事を。私は私で地球人。

そして、あなたは誰ですか？

宮沢賢治作品の感想文 6年2組

「よだかの星」を読んで



石川 義将

ぼくがこの作品を読んでとても感動した場面は、最後のよだかが星でぼくはよだかの星という作品はとても良い作品だと思いました。燃えている、とありますが、僕はここに感動しました。あんなに醜かったよだかが、星になって、他の星からも見えるほど輝くことで暗い夜を照らし、人々に元気を与えていてすごいなと思ったからです。よだかの星は燃え続けました。いつまでもいつまでも燃え続けました。今でもまだ燃えています。という文も、ずっと照らしていてすごいなと思いました。よだかの星は燃え続け、今でも同じように人々を照らしてくれて、みんなを支えてくれる星になっています。

ほとんどの星は燃え尽きてしまうのに、いつまでも強く、勇ましく、生き生きと燃えている星はとても生命力があると思います。よだかはおそろくいやな人生、最悪な人生だったと思います。

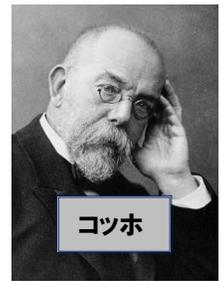
もし僕が同じ立場なら、よだかと同じように落ち込むかもしれませんが、少しは前を向いてみようかなと考えます。

そしてたかが家に来た時のシーンは、僕がよだかだったら、違う名前にしてほしいと頼むかもしれません。でもこの名前は神様からもらったものなので、よだかと同じ行動をとったかもしれませんし、自分をみがいたかに強くなったところを見せて、見返してやる可能性もあります。なぜなら、弱いままだとずっといじめられるからです。

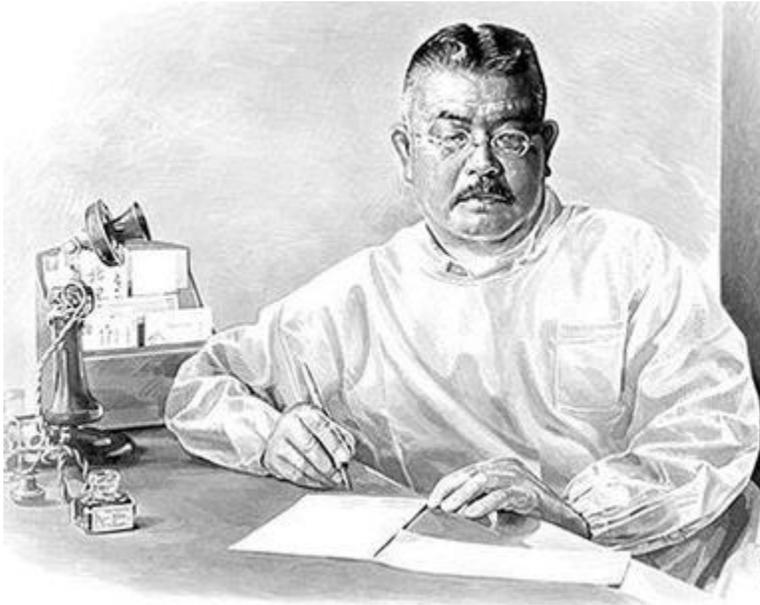
このお話は、よだかがみんなを照らすために星になったところがとても感動する作品です。もしよだかにアドバイスをあげるなら、少し前に進む努力をすれば、みんなに認めてもらえるかもしれないよと伝えたいです。

ドイツで最先端の医学を学んだ北里柴三郎②新千円札の人物

1885年北里柴三郎はドイツに渡り、細菌学で第一人者の有名なローベルト・コッホ(コレラ菌 結核菌などを発見)と出会い、その指導のもとで、研究に打ちこみました。北里柴三郎を指導したコッホは、10歳年長でした。北里の非常に熱心に研究に打ち込む姿とコッホの研究信念が重なり、二人は研究を通じて本当の親子のような関係を築きました。



コッホ



破傷風の血症療法を確立した記念

「破傷風」の治療と予防

北里柴三郎は、当時多くの人が死んでいた「破傷風」について、血液中から菌だけを取り出す方法を世界で初めて開発しました。そして、弱くなった菌を動物に注射し、抗体ができた動物から採取した血清を、人に注射することで体内に「抗体(体内に侵入してきた異物と戦ってくれる)」が作られ、予防ができる「血清療法」を発見し開発しました。

破傷風の有効な予防・治療法がなかった当時、弱い菌を注射することは、当時はすごい発見で、世界中の研究者たちを驚かせました。この血清療法は、予防接種などで用いられるワクチンの開発につながり、世

界中で医療に役立つようになりました。こうした功績により、北里柴三郎は世界で認められる細菌学者としての地位を確立していったのです。

日本へ帰国

北里柴三郎は、「ドイツに残って研究を続けるように」との熱心な誘いを断り、6年間の留学を終えて帰国しました。

北里柴三郎が帰国した後、さぞいろいろな研究機関が彼を欲し
いだろうと思われませんが、実際はそうではありませんでした。母校
の東京医学校も、彼の受け入れを断ります。これには、ドイツ留学
中にある騒動がありました。

柴三郎をドイツに留学させた上司の研究内容を、柴三郎が非難
したのです。結果的には、柴三郎側の主張が正しいことが証明され
るのですが、上司が彼のことを「恩知らず」といってしまったので
す。これにより、柴三郎を受け入れる研究機関がほぼなくなって
しまったのです。



伝染病研究所

そんな様子を、静かに見守って
いた男がいました。それは、現在の一万
円札の福沢諭吉でした。福沢は北里柴

三郎の研究にかける熱意に感動し、その実績を評価していました。

彼を受け入れる機関がないことを深く心配した福沢は、柴三郎のために協力を
申し出て、資金を集め、東京に日本初の伝染病研究所を作りました。

(1892年)北里柴三郎は初代所長となり、主に伝染病予防と細菌学の研究が
行われました。



福沢諭吉と北里柴三郎の友情

【お知らせ】

1 令和5年度 幼稚園募集について

12月5日時点で募集定員を超えませんでしたので、期限内に申込の方は全員受付となりました。

2月4日入園説明会のお知らせは、12月に学校から郵便で発送、またはご兄弟が本校に在籍しているご家庭には、配布する予定です。

なお、今後も入園募集受付を継続いたします。

2 落とし物について 保護者の会より

落とし物を、毎週玄関に置いてありますので、ご確認ください。12月17日までに、引き取りのない忘れ物につきましては、処分させていただきますので、ご承知おきください。

3 図書係より 12月17日は、4冊の貸し出しとなります。(冬休み前のため)

本日の配布物 第1回漢字検定結果 対象 受検者